

午後 試験

問 1

問 1 では、大規模基幹システムの移行開発を例にとり、段階的な開発や開発結果の検証について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 1(1) では、“仕様凍結期間を短くする”という趣旨が理解されていたようであった。解答としては“仕様凍結を待たずに新システム開発に着手できる”という開発上のメリットと、“仕様凍結期間を短くし、業務への影響を小さくできる”という利用者のメリットが考えられる。アプリケーションエンジニアとしては、開発上のメリットに加えて、利用者のメリットも合わせて考慮することの大切さを理解しておいてほしい。

設問 1(3) は、“新システムの稼働に間に合わない”とか“新システムの稼働が遅れる”という解答が散見された。新システムの仕様は静止点 2 で確定していることを認識し、“現行機能開発を正しく実施する”という視点で考えてほしかった。

設問 2 は、正答率が高かった。

設問 3 は、新システムへの移行の手順や、表 1 のファイル内容一覧の説明を参照していないと思われる解答が散見された。問題文中に記された前提条件を正しく理解して解答することを心がけてもらいたい。

問 2

問 2 では、オフィス機器販売会社の在庫管理システムを例にとり、物流倉庫の分散化に伴う在庫管理システムの開発について出題した。全体として、題意はよく理解されていたようであった。

設問 1 は、図 2 中の“機能名”を答えよとしているにもかかわらず、“処理名”での解答が散見された。

設問 2(1) の在庫マスタ及び在庫履歴マスタの主キーに関する設問は、正答率が高かった。誤答の中には、主キーの一つである“倉庫コード”を“管轄部門コード”とした解答が散見されたが、問題文中の在庫管理単位を正しく理解して解答することを心がけてほしかった。(2) は、在庫マスタの更新処理に関する設問であった。物流センタ在庫に関する更新処理は正答率が高かったが、移動中倉庫在庫に関する更新処理は正答率が低く、加算更新と減算更新の処理名を逆に記述している解答が散見された。移動中倉庫という仮想の倉庫の入出庫と物理的な倉庫の入出庫及び関連する処理の関係を正しく読み取ってほしかった。

設問 3、設問 4 は、正答率が高かった。

アプリケーションエンジニアとして、業務要件からみてシステムとして取り込むべき対象に抜けが出ないよう、細心の注意を払うことをこれからも心がけてもらいたい。

問 3

問 3 では、コンビニエンスストアにおける発注業務の効率改善を例にとり、システム化の効果の測定、成果の確認、及びシステムの改善について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 1 は、c を“想定発注数量”とした解答が多かった。これは、本部サーバと店舗サーバの機能分担についての理解が不十分であった結果と思われる。

設問 2(2) の短縮率の計算は、正答率が低かった。誤答の中には、商品群 Z だけの短縮率を計算したり、商品群ごとの 1 日の発注回数を考慮せずに短縮率を計算したりした解答が多かった。

設問 3 は、“C 社と店舗間の取決めにに関する観点”からの理由は正答率が高かったが、“システムの変更上のメリットの観点”からの理由は正答率が低かった。

設問 4 は、アプリケーションエンジニアにとって最も基本的な技術の一つであるアプリケーションの結果検証に関する設問であったが、誤った解答が多かった。問題文に記述された仕様を丁寧に読めば正解を導けるはずであり、落ち着いて解答することを心がけてもらいたい。

問 4

問 4 では、ホテル管理システムを例にとり、インターネットからの予約業務による登録照会機能を中心に、その処理設計について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 1 (1) の c は、表中の操作概要を省略したためか正答率が低かった。入力情報を引数として解答する基本的な設問であるので、シーケンス図をよく理解して、確実に解答するようにしてほしい。

設問 1 (2) と (4) は、正答率が低かった。誤答の中には、不等号の向きの間違いや問題文中に記載されている機能を誤って転記するなど、ケアレスミスと思われる解答が多かった。

設問 2 (1) は、処理内容を把握して更新すべきデータを選択する設問であり、正答率は高かった。

設問 3 は、正答率が高かった。データを扱う基本的な設計能力が身につけていることがうかがえる。

システム構築における登録・照会機能の設計は、アプリケーションエンジニアにとって基本であり極めて重要である。その際に利用するクラス図、シーケンス図について十分な理解ができる能力を身につけておいてほしい。